



考 動

川西市立東谷中学校立

学校便りNo. 2 (30. 4. 25)

発行者 校長 足立 仁志

<保護者の皆様へ>

今年度の教育方針について

昨年度、一昨年度は、国から「魅力ある学校づくり調査研究事業」の指定を受け、「わかる授業の実現」「生徒理解の深化」「人間関係づくり」を行うことで、新たな不登校を生まない学校づくりを推進しました。特に、規律を守り落ち着いた学習環境をつくることや、誰にでもわかりやすい授業を目指し、授業のユニバーサルデザイン化に努めました。

その結果、学校が楽しいと感じている生徒、授業に主体的に取り組んでいると感じている生徒の比率は高くなっています。昨年度は、県外も含めて多くの教育関係者が本校を視察に来られましたが、規律が守られている授業の様子や生徒と教員の関係性が良いことなどを高く評価していただきました。本校生徒の学びに向かう基礎はすでに確立されていると言えます。

今後は、その基礎の上に何を積み上げていくかが大切になります。本校生徒の特長として、与えられた課題に対しては一生懸命取り組みます。それに対し、主体的に考え行動する姿勢には、多少課題があるように思われます。これは本校生徒に限った話ではないのかもしれませんが、しかし、今の東谷中生には、基礎が確立されているからこそ、さらに高いものを積み上げていくことができるはずだと信じています。

基本方針

～自ら考え行動する思いやりのある生徒の育成～

今年度の教育方針を「自ら考え行動する、思いやりのある生徒の育成」としました。

<自ら考える生徒の育成>

変化の激しいこれからの時代においては、一度身に付けた知識や技能が、そのまま一生使えるとは限りません。そのため、生涯にわたって、常に新しい知識や技術を身につける能力が必要です。学習面においては、主体的に学ぶ態度を育成することが重要になります。単に与えられた課題に対して取り組むだけでなく、「なぜそうなるのか」を考え疑問を持ち、課題を発見する能力を身に付けていかなければなりません。

社会に出た時に求められる「主体性」「問題解決能力」「コミュニケーション力」等は、中学校の教育活動で育てていくことが可能だと考えています。そのためにも、全ての教育活動において、自ら考え行動する姿勢が身につくよう指導していきたくと考えています。

<思いやりのある生徒の育成>

最近の若者は、ライン等SNSの影響もあり、人とつながることを非常に好みます。その反面、嫌われることや傷つくことを恐れ、深く人と関わることを避けようとしています。本校生徒においても、同様の傾向があるように感じています。

人間は互いに助け合い、協力し合わなければならないことや、他者との関わりを持つことの大切さはよくわかっています。しかし、それが実際の行動に結びつくまでには至らないことが多いようです。

相手の立場に立って考え行動することで、思いやりの心は育まれます。学校生活の中で、今ある思いやりの心が行動へと移せるよう指導し支援していくことで、誰にとっても過しやすい学校を築いていけるのではないかと考えています。

「考動」と「幸動」

生徒たちには、自ら考え行動する「考動」と、相手が少し幸せな気持ちになれるよう行動する「幸動」の、二つの行動を意識してほしいと願っています。自ら考えて行動する力、相手の立場に立って考え行動する力を育てていきます。

○教科学習

最近の子どもたちは、何か解決できない問題に直面したとき、パソコンやスマートフォンに答えを出してもらおうとします。しかし、「知っている」「わかっている」と「できる」とは違います。授業においても、講義と一問一答式の質問だけで一時間が終わってしまうと、生徒は受け身になりやすく、主体的に学ぶ姿勢や知識を活用する能力は育ちません。アクティブラーニングを積極的に取り入れることで、学習意欲を高めると共に、思考力・判断力・表現力の育成を目指します。

○生徒会活動

生徒会活動は、学校生活の向上を目的とした生徒の自治活動です。決して、生徒会役員と学級委員だけの活動ではありません。これまでは、目標設定と点検活動だけで終わってしまうことが多く、生徒が主体的、自発的に活動する取組にはなっていませんでした。東谷中学校生一人ひとりが自覚を持ち、より良い学校づくりに主体的に関われるよう、生徒会活動の活性化を図ります。

○学校行事

授業時数の確保や新学習指導要領の全面実施に向け、行事に多くの時間を割くことはできなくなっています。今年度の行事については昨年度通りとしますが、来年度以降、合唱の実施時期を中心に行事の見直しを行います。3年生の入試がある3学期には、大きな行事は行わないことが全国的な傾向です。しかし、行事は、生徒たちに将来必要とされる社会性を身に着けるために必要な活動です。行事の取組には、総合の時間と関連付けて指導できる内容も多く、学校教育活動に適切に位置づけ、主体的に取り組む姿勢や、よりよく問題を解決する資質を育てる活動にしていきたくと思います。